

平成19年度 授業力ブラッシュアッププラン

中学校道徳 学習指導案



久慈市立山形中学校

【日 時】 平成19年11月7日(水) 5校時
【学 級】 2年A組

第2学年 道徳学習指導案

日時：平成19年11月7日（水）第5校時

学級：久慈市立山形中学校 2年A組

（男子11名 女子11名 計22名）

場所：2年教室

授業者：教諭 中軽米 央子

1 主題名 法やきまりの遵守 4 - (2)

2 資料名 『錆びた自転車』(自作資料)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

社会生活に秩序を与えるために法やきまりは必要であるが、それを守ることは、どちらかというところ「自分よりも他人の権利を尊重する」というイメージが強い。しかし、社会を形成する一人一人の遵法によって自分自身の自由や権利が守られ、安らかな生活が保障されている。利己的な考えが強くなってきている中学生には、まずそのことを自覚させたい。

現在の日本には「宗教心」や「絶対的な精神のよりどころ」といったいわゆる「絶対価値」が殆ど存在しない。「何かに畏れて法やきまりを守る」という心のブレーキとなる又ミノース的概念（魂が打ち震えるような畏れの感情）は希薄な状態といえよう。そのため遵法は「自尊心、正義感、羞恥心...等」といった、あくまで個人の心の育ちに依るところが大きい。そのような社会背景で中学生に積極的な規範意識や遵法精神を育てるために、人は「法やきまり」を破る心の弱さをもっていることに気づかせた上で「人としてどうあるべきか」という誇り高い生き方を追求する心情につなげて指導していかねばならないと考える。

(2) 生徒の実態

何事に対しても、未だ深くはないが素直に見つめる目を持つ生徒たちである。しかし、感情表現が非常に不器用で、思いが伝わらずに葛藤し衝突する場面も見られる。

価値に関しては、自分で納得して行動し自らを評価したいという自我が強いためか、「きまりを守ったことへの賞賛」を拒否する傾向が強い。逆に、納得すれば自発的に動く。それ故に納得しているきまりを何らかの理由で破ってしまうと、強い自責の念に駆られる様子を見せるが、その反省を言動で表現することができない。自分の弱さや甘さと向き合わず、過ちを誤魔化そうとする傾向が見られる。

道徳の時間では、主人公に感情移入するとまるで自分のことのように一喜一憂する表情を見せるが、その思いを言葉で表現する力は乏しい。その反作用として、価値レベルの高い発言や自分たちの考えを代弁するような発言が出ると、自分の思いと照らし合わせながら素直に傾聴する。このような実態から、蕩々と思いを語らせるより、端的な表現でも良いのでなるべく多くの生徒に発言させ、その思いの理由を教師が手助けしながら引き出す展開を心がけてきた。

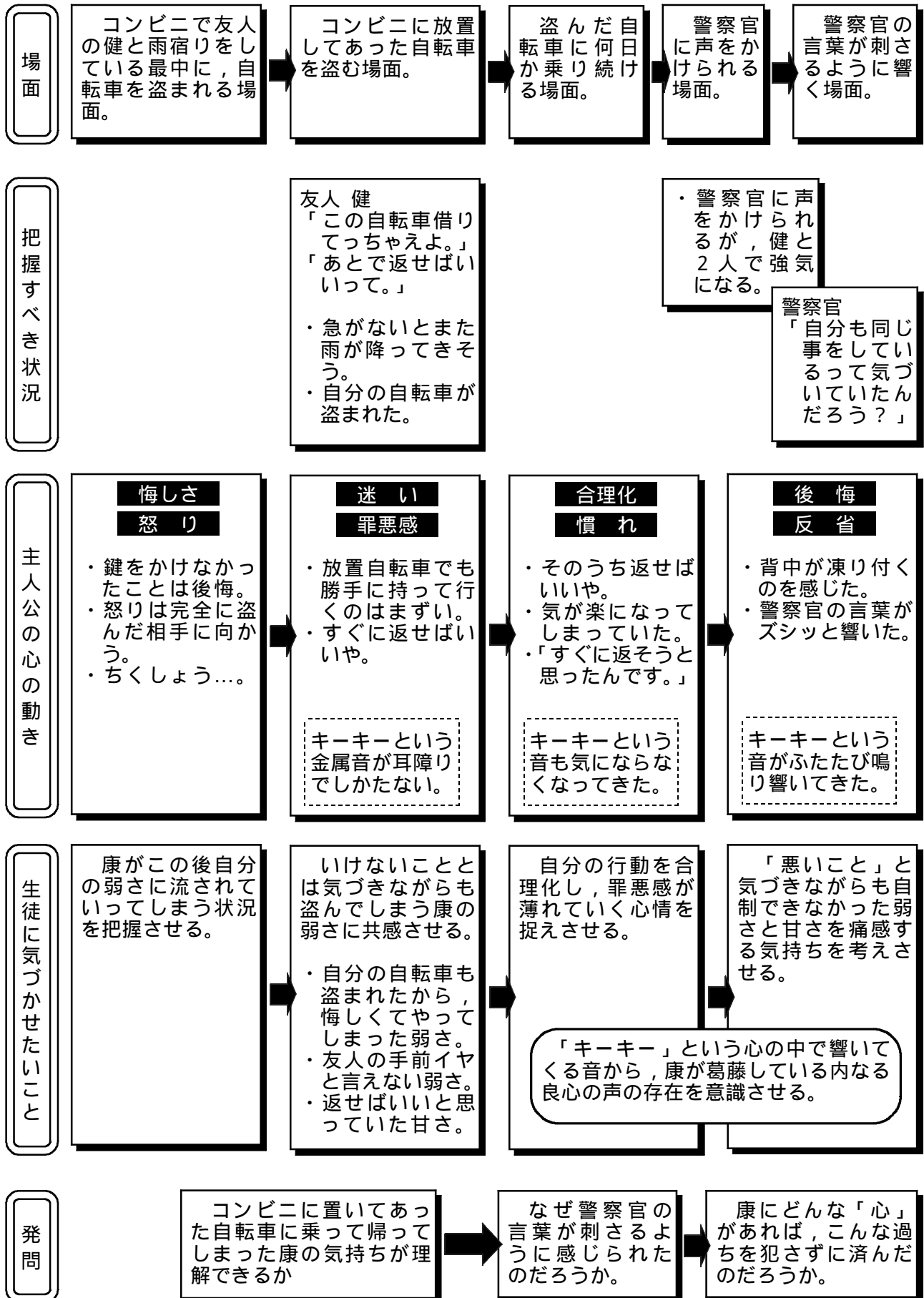
4 自作資料「錆びた自転車」を用いた授業の構想について

中学2年生の生徒であれば「きまりは守るべきものである」という言葉は容易に出てくるが、遵法の根拠は多様である。そこで、道徳の時間ではより『高い規範意識』の醸成をめざして、誰しもが持っている「やってはいけないことをすると、なぜかモヤモヤして落ち着かない」という良心とも言うべき感情を目覚めさせたいと考えた。それをこの資料では、心の中で鳴り響く「キーキー」という音に象徴させた。

主人公の康は自分の行動を合理化して自分自身を納得させようとするが、罪の意識が見え隠れする。人間の心の弱さや甘さに共感させつつ、どう行動するべきだったのかをしっかりと考えさせたい。また、たとえ犯罪だという自覚が薄くても、やっていいことと悪いことを判断して行動しなければならないことを、中学生には妥協することなく教えたい。そして、自分の弱さに打ち勝ち、自制心を持ってきまりを守ることは、より誇り高い生き方であることに気づかせていきたい。

最後の場面は、自転車の持ち主でも一般の大人でもなく、敢えて警察官を登場させた。これは、自分も盗まれたことを盾に身勝手な理屈を語り始める主人公（昨今の中学生によく見られる傾向とも言えるが）に、法を守らせる側の中立的な立場の人間から、客観的な指摘を与えたかったためである。「警察官が怖いから法を守る」という価値レベルの低い結論も予想されるが、主人公の心を締め付け続けている深い後悔の念はどこから来ているのかを考えさせることで、目指している『高い規範意識』に結びつけられるものと考えた。

5 資料分析図



6 本時のねらい

人は時として法やきまりを破ってしまう心の弱さを持っていることを理解させた上で、遵法のために必要な心構えを育てる。

7 本時の展開

	学習活動と主な発問	期待する生徒の反応	指導上の留意点
導入 5分	1 資料のイメージをつかませる。 急いでいるのに自転車が無く困っていたとき、目の前に古い自転車が放置してあったら？	<ul style="list-style-type: none"> ・乗りたくなるかもしれない。 ・誰も見ていなかったら乗るかもしれない。 ・誰も見ていなくても乗らない。 	
展開 35分	2 資料「錆びた自転車」から考える。 自転車がなくなること気づいたときの康の気持ちは？	<ul style="list-style-type: none"> ・ちくしょう。 ・なんで俺のが... 	<ul style="list-style-type: none"> ・悔しい気持ちをそれぞれの言葉で表現させて、共感を高めたい。
	康の心の中で変化していくものは何かを探っていこう。		
	<p>コンビニに置いてあった自転車に乗って帰ってしまった康の気持ちが理解できるか。またそれはなぜか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のネームカードを黒板に貼る。 	<p>(気持ちもわからない側)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな理由であれ盗みをしてはいけないから。 <p>(気持ちはわかる側)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の自転車を盗まれて腹が立っていたから。 ・友人の手前イヤと言えないと思うから。 ・泥棒という意識がなく、返せばいいと思っていたから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「物を盗む行為は決して許されないことであるが」と前置きしてから発問する。 ・自分のネームカードを張ることで授業に参加している意識を高めさせる。 ・康のおかれた状況を確認しながら弱さに共感させる。
	康の心を表す「キーキー」という音について考えていく。		
	「キーキー」という音が意味するものは何だろう？	<p>(帰り道：どンドン大きく...)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・康の罪の意識。 ・やっぱり「やばい」んじゃないかという気持ち。 <p>(数日後：気にならなくなる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・罪の意識が薄れてきた。 ・慣れてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もし置き換えるとどんな言葉があてはまるかなどを想像させながら、康が葛藤している内なる良心の声の存在に気づかせる。
	なぜ警察官の言葉が刺さるように感じられたのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・これは犯罪だったんだ。 ・「悪いこと」だと気づいていたのにやってしまったから。 ・自分の考えが甘かったと思ったから。 ・深く後悔したから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「犯罪」だという自覚がなくても善悪の分別はついていた。自制できなかった甘さを痛感する康の心情を感じ取らせる。
	「キーキー」という音が意味するものは何だろう？	<p>(ラスト：ふたたび鳴り響く)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・罪の意識が復活した。 ・取り返しのつかないことをしたという強い後悔の気持ち。 	

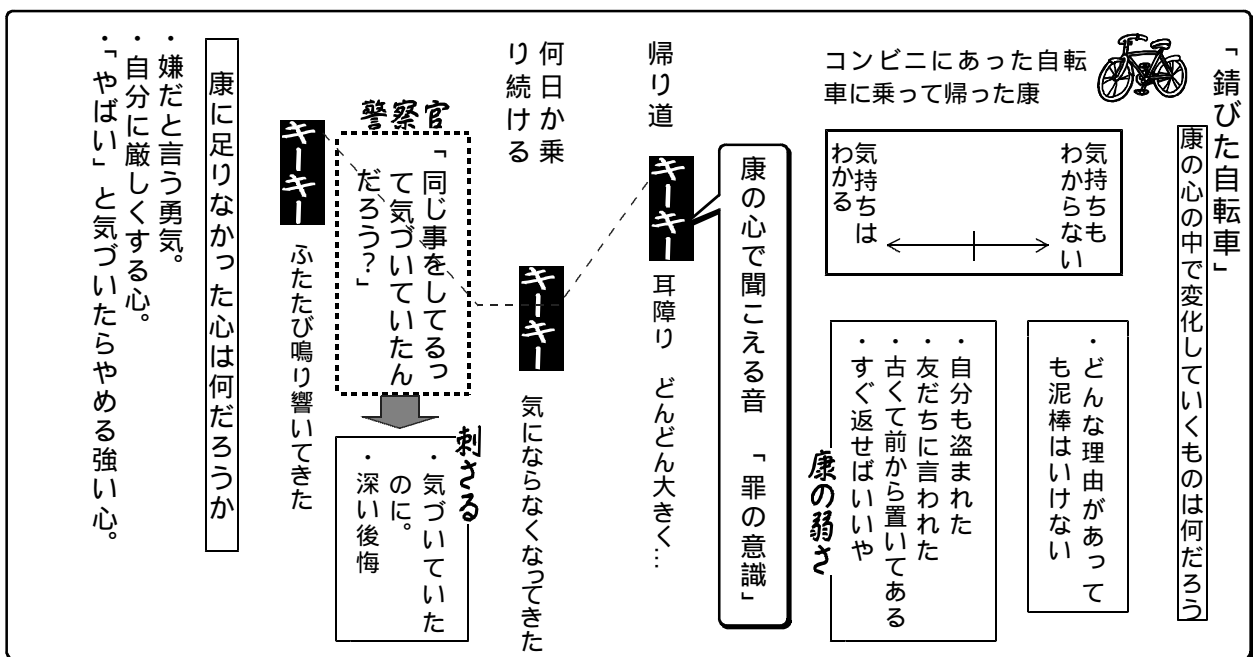
	<p>康がどんな心を持っていれば、このような過ちを犯さずに済んだのだろうか。(康に足りなかったのはどんな気持ちだろうか。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・たとえ友達に言われても嫌だと言う勇氣。 ・「やばい」と感じていたらやめる強さ。 ・自分に厳しくする心。 ・犯罪に関する知識を持つ。 ・そもそも自分の自転車に鍵をかければよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この資料では康の変容が行動としては明確ではないので、康に足りなかったものに気づかせながら「価値を自覚したあるべき姿」を想像させたい。
<p>この後、康はまた同じ間違いを繰り返すと思うか。またそればなぜか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・捕まるのが怖いから繰り返さない。 ・誰も見ていなくても自分自身が許せないから繰り返さない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ「繰り返さない」でも、その判断理由から価値レベルが高い生徒の言葉を聞かせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「心のノート」 p. 88 に書く。
<p>3 本時で学んだことを振り返る。 「法やきまり」を守るためには、どのような心構えが必要なのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身勝手な考えをやめる。 ・自分の弱さに負けない強い心を持つ。 ・法やきまりについて正しく理解する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・「心のノート」 p. 88 に書く。

8 本時の評価 (ア: 授業者側 イ: 生徒)

ア 生徒が互いの考えを聞き合い、思いや感じ方を深めらるような展開がなされたか。

イ 人間の心の弱さを理解した上で、「法やきまり」を守るためにはどのような心構えが必要か気づくことができたか。

9 板書計画



錆びた自転車

土曜日は毎週買っている雑誌の発売日。この日は朝から小雨が降っていた。少しでも早くマンガの続きが読みたかった康は、歩いて買いに行くのもどかしかった。家から一番近い「コンビニ」は歩くと二十分くらいだが、自転車だと五分もかからない。「」のくらの雨なら。ちょっとぐらいぬれてもいいや。」

康は自転車に飛び乗った。「コンビニにいたら仲のいい健とばったり会った。健もやっぱり同じ雑誌を買いに来ていたのだ。」

「康、どうしたの？ ずぶぬれだよ。」家を出たとたん、思ったよりも雨が強くなってしまったのだ。

雨が少し小降りになるまで、2人はコンビニの店内で待つことにした。夏休みだったので、健と会うのは久しぶりだ。話がはずんでしまっ、思ったよりも時間が経っていた。

「あれ。いつの間にか雨が弱くなってる。」

「ほんとだ。ねえ、今から康んち行って遊んでいい？」

まだ話足りなかった康は、健の提案にすぐのった。

また雨が強くなる前に行かなければ。二人は急いでレジを済ませて外に出た。

「あれ。俺の自転車がない！」

「嘘だろ？ どこに置いたんだよ。」

康は自転車に鍵をかけていなかったことを思い出した。

「ちくしょう……。」

鍵をかけなかったことを後悔しながらも、怒りは完全に自転車を盗んだ相手に向かっていた。

「おい、この自転車鍵かかってないよ。借りてっちゃんえよ。」

ふと見ると、健が古い自転車指さしていた。確かにその古い錆びた自転車は、ちょっと前からこの「コンビニ」にあったのを覚えている。

「店の中に他にお客さんいないし、たぶんこれ誰かが乗り捨てていった自転車だよ。」

「でも、やばいって。」

「いいじゃん。あとで返せばいいって。」

雨降ってくる前に早く行こうよ。」

すぐに返しにくければいいや。そう思った康はその古い自転車にまたがった。

その自転車のサドルはとても低く、錆びたボディーからピンクの花柄が見えた。自分より小さい女の人に乗っていたのかなあ。どうしておきざりにされてたんだろう。やっぱり、自分と同じように誰かに盗まれたのかも……。康は自転車をこぎながらいろいろなことを考えていた。

油が切れた古い自転車の金属音が、キーキーと耳障りみみざわでしかたなかった。そしてその音は、気持ちが悪くな

るくらいにどんどん大きくなっていった。コンビニから自分の家までのほんの五分くらいは、ものすごく遠く感じた。自転車で後ろを走る健が途中で何度か話しかけてきたが、康は適当な返事しかできなかった。後ろを振り返らずに、康は一気に家まで自転車をこぎ続けた。

それから何日か康はその自転車に乗っていた。コンビニに返しに行き乗って捨ててくるのも、なぜか気が引けたというのもあった。

「俺の自転車も戻ってこないし、どうせこれは誰も乗っていなかったのだから。そのうち返せばいいや。」

そう考えると、少し気が楽になってしまっていた。キーキーと耳障りだった音も、なんとなく気にならなくなってきた。

「ちょっと、きみ。その自転車見せてくれるかな？」

健と待ち合わせしていた場所に自転車をとめようとしたら、背後から男の人の声があった。警察官だった。

「え…。これは…。」

「ほら、ここに防犯登録番号がついているだろう？ これ盗難届が出る自転車なんだよ。」

康は背中が凍り付いていくのを感じた。

「だって、康君は自分の自転車盗まれたんですよ。これもどうせ誰かが盗んで乗り捨てていったやつなんでしょ。ちょっと借りたっていいじゃないですか？」

うつむいたままの康の横から、健が警察官に向かってきっぱりと言いはなした。

「そう…。そうなんです。すぐに返そうと思っていました。僕の自転車も戻ってこないんです。」

康は少し強気になってそう言った。すると警察官は静かに言った。

「そうか。それは気の毒だったね。でも、自分も同じ事をしているって気づいていたんだろう？」

警察官の口調は穏やかだったが、康には鋭く刺さるようにズシッと響いた。ふたたびあのキーキーという金属音が、頭の中でなぜか鳴り響いてきた。

